

令和5年3月9日

発 言 者	発 言 要 旨
奥山委員	名古屋事務所を新ビルへ移転するに至った経緯はどうか。
産業創造振興課長	以前、中日ビルに入居していたが、当該ビルを解体し、建て直すこととなり、近隣の中日久屋ビルに移転し、現在活動している。この度新しい新中日ビルができ、以前入居していた縁もあり、中日ビルから入居を提案してもらったことから、移転に係る経費を予算に計上している。
奥山委員	立地場所及び事務所の広さはどうか。
産業創造振興課長	中日ビルの提案では、5階の一角を使用させてもらえるようであり、共通スペースも設置されるということで、集客には適した場所になると思われる。ビルの上層階はホテルになり、カルチャースクールセンターも入ると聞いており、多くの方から来てもらえる場所と期待している。
奥山委員	やまがた観光情報センターの機能強化の具体的内容はどうか。
観光復活戦略課長	これまで以上に人を呼び込み、県産品や県の観光情報をさらに発信できるような形でリニューアルをしたいと考えている。具体的には、①椅子やテーブルを配置し、気軽に入ってもらえるようにすること、②日本酒を試飲できる機械の導入やフルーツジュースを提供すること、③大型ディスプレイを設置し、常時観光情報を発信すること、④市町村や観光物産関係の事業者が物産市やイベントができるような設備を導入することを考えている。
奥山委員	同センターの来館者数の状況はどうか。
観光復活戦略課長	過去5年で最も来館者が多い平成29年度が約470人／日であり、最も少ない令和3年度が約150人／日である。4年度は約220人／日まで戻ってきているため、この度のリニューアルを生かし、さらに来館してもらえるように工夫していきたい。
奥山委員	同センターのバリアフリー化の状況はどうか。
観光復活戦略課長	同センターではバリアフリー化に力を入れており、観光庁の「心のバリアフリー認定制度」の認定を受けている。車椅子の方向けにパンフレットの棚を低く設置、休憩スペースの準備、案内表示を大きくするなど取り組みを実施している。
奥山委員	やまがた旅割キャンペーンにより来県した旅行者のデータの分析を実施する考えはあるのか。
観光復活戦略課長	県内旅行者と県外旅行者がどのくらいの割合で来県しているのか、県外旅行者はどの県から来ているのか、クーポン券がどのような施設で多く使われているのかについて、データを集計しており、それを今後の施策に反映していきたい。

発 言 者	発 言 要 旨
奥山委員	山形ふるさと観光検定の受検状況及び来年度に向けた取組みはどうか。
観光復活戦略課長	令和3年度の受検者は約1万人であり、4年度は2月中旬段階で約1万8千人である。2年目ということもあり、事業が浸透してきたと考えている。5年度も継続して取り組んでいきたい。
奥山委員	東京都と連携して実施する、女性の視点を取り入れた観光誘客事業の取組内容はどうか。
観光復活戦略課長	<p>47都道府県のうち、女性知事であるのが本県と東京都の2つのみであり、両知事が先頭に立ち、女性の視点から観光誘客策を展開してはどうかということが発端となり、来年度から新規に取り組む事業である。</p> <p>来年度は、まず、本県及び東京都の女性経営者、観光業界の方、民間の方に参画してもらい協議会を組織し、協議会で検討しながら観光振興・誘客を東京都と一緒に進めていく考えである。具体的事業については、両知事のトップセールス、合同でのキャンペーン、女性向けの雑誌による情報発信等が考えられるが、今後、協議会の中で検討していく予定である。</p>
奥山委員	教育旅行で来県した方に対し、県から米沢牛を提供するなど、見える形でおもてなしすることが山形のPRになり、将来のリピーターにもなると考えるがどうか。
観光復活戦略課長	教育旅行の誘致については、教育旅行誘致協議会が中心となり取り組んでいるが、観光物産協会、学校、旅行会社等の関係者と相談し、どのような手法が最も効果的か、実施の可否も含め、検討していきたい。